The structural model on the effect of vascular access construction in dialysis acceptance in patients with diabetic nephropathy

メタデータ	言語: eng 出版者: 公開日: 2020-11-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00060006

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

令和 2 年 2 月 20 日

博士論文審査結果報告書

学籍番号　1629022019

氏　　名　藤田　祐子

論文審査員

主　査（職名）　大桑　麻由美（教授）　印

副　査（職名）　津田　朗子　（教授）　印

副　査（職名）　稲垣　美智子（教授）　印

論文題名 The structural model on the effect of vascular access construction in dialysis acceptance in patients with diabetic nephropathy
（糖尿病性腎症患者における内シャント造設が透析受容に影響する構造モデル）

論文審査結果

【論文内容の要旨】

糖尿病性腎症の患者の血液透析導入時における大きな課題には，透析受容の困難がある。この透析受容の過程において，内シャント造設は透析開始の上で必ず経験することであり，そのことが，その後に続く血液透析継続に影響を与えていることを質的研究により明らかにしてきた。本研究は，先行研究を基に「内シャント造設」がどのように「透析受容」に影響するかの構造モデルを描くことであった。先行研究（博士前期課程）により作成した概念図を基盤とし，「内シャント造設から現在の療養行動について問う質問紙」原案を作成した。探索的因子分析により質問項目を精選し，共分散構造分析により構造モデルを作成した。質問紙原案を回答する対象者は，血液透析導入 5 年以内の 2 型糖尿病性腎症患者であり，12 施設にて実施した。結果，質問紙は 117 名に配布，回収数は 95 名（回収率 81.2%），有効回答は 90 名（有効回答率 94.7%）であった。質問紙原案 47 項目の平均値と標準偏差から得点分布を確認し，22 項目に精選された。さらにこの 22 項目を手順に基づき一般化した最小二乗法およびプロマックス回転による因子分析を行い，3 因子 13 項目を採用した。因子名は第 1 因子：身体を意識した透析療養生活（5 項目），第 2 因子：まだ身体は大丈夫という希望（4 項目），第 3 因子：内シャント造設を遠ざけていた気持ちの回顧（4 項目）となった。内部一貫性を示す全項目の Cronbach’sα係数は 0.673-0.829 であった。構造モデルの作成では，3 つの潜在変数と 3 つの観察変数から，χ^2=117.358，GFI=0.863，AGFI=0.814，CFI=0.945，RMSEA=0.044 という高い適合度を示した。‘内シャント造設を遠ざけていた気持ちの回顧’から‘まだ身体は大丈夫という希望’には正の相関，‘内シャント造設を遠ざけていた気持ちの回顧’から‘透析受容’とは負の相関を示した。

【審査結果の要旨】

本研究は，‘内シャント造設を遠ざけていた気持ちの回顧’から‘まだ身体は大丈夫という希望’または‘身体を意識した透析療養生活’を介することで，‘透析受容’に至る構造モデルを描けたことで，2 型糖尿病性腎症患者の透析導入時の介入方法に，新たな視点を見出すことができた。質疑応答では，研究デザインに基づく手順や分析方法について，また研究の限界について適切に述べていた。分析の視点についてもさらに考察を深めることができた。以上，学位請求者は本論文の論文審査及び最終試験の状況に基づき，博士（保健学）の学位を授与するに値すると評価する。